

委員会視察 REPORT、議会 NEWS

企画総務委員会視察 REPORT

日程・視察先
5月12日 山口県宇部市
5月13日 山口県下関市
報告者 企画総務委員長 田中 のりあき
参加委員数 7人

山口県宇部市

「シティセールス」について

平成24年度から本事業に取り組み、翌年度に広報部の名称を広報・シティセールス部に変更、「人が元気になり、地域が元気になり、いかに人を呼び込むか」を目標とした。

市を積極的にPRすることが可能な方を、居住地や出身地に関係なく、シティセールスパートナーとして登録し、市の持つ魅力の市内外への効果的な発信に努めてもらった。市長もみずから都心に出てトップセールスを行い、企業の誘致と雇用枠の上昇にも成功した。特に効果的だったのは、プレスツアーやメディアキャラバンなど、首都圏のメディアを市に招き、地域資源を実際に見て・触れて・魅力を伝えるという手法で、メディアに取り上げられる確率が高かった。

急激な工業化による公害都市という市のイメージを変えるために、まちを彫刻で飾る運動を広め、ときわ公園にて「UBEピエンナーレ(現代日本彫刻展)」を隔年で開催している。

山口県下関市

「庁舎建設候補地の決定までの経緯」について

合併協定項目には「合併後10年以内を目標に新庁舎の建設」「建設位置は新市の住民全体の利便性を考慮し、新下関区域周辺が最適であるとの多数意見に配慮すること」とされていた。

外部委員から成る新庁舎建設候補地検討委員会を設置、この答申を受け副市長を委員長とした庁舎問題検討委員会を設置したが、候補地を1カ所に決められなかったため、住民説明会・アンケートを実施し、市長の総合的な判断で新下関区域に移転・新築を決定。

しかし、その後の選挙で移転・新築反対の市長が当選し、新庁舎建設問題が白紙となり、新市長は、現庁舎の活用を最優先し、既存の本庁舎の本体部分を耐震改修しながら増設を図るとした。議会棟・保健所棟は解体・撤去し、市民サービス棟を新築した。

文教厚生委員会視察 REPORT

日程・視察先
5月14日 岩手県盛岡市
5月15日 岩手県遠野市
岩手県釜石市
報告者 文教厚生委員長 佐藤 公男
参加委員数 8人

岩手県盛岡市

「もりおか子育て応援パスポート事業」について

盛岡市では、平成16年に行った盛岡市次世代育成支援に関するニーズ調査と、市長公約の2つの観点から市と商工会議所で検討を重ね、平成20年より、「もりおか子育て応援パスポート(通称:もりパス)」をスタートさせた。

盛岡市が発行する「もりおか子育て応援パスポート(通称:もりパス)」を、盛岡市内の協賛企業、店舗などに提示することにより、さまざまなサービスを受けることができる。

岩手県遠野市

「地域ICT健康増進ネットワーク事業」について

遠野市は、高齢化が進み、平成26年4月末現在の高齢化率は35.2%で、これは25年後の日本の姿といわれている地域である。

1人当たりの医療費も国民健康保険被保険者で、年間約33万円、後期高齢者保険被保険者では、2倍の66万円という状況である。そこで、高齢者の健康不安の払拭、健康寿命の延長、医療費の削減を図るため、ICTを活用した健康づくりと医療支援を3本柱で行っている。

「遠野ICT健康塾」は、テレビ電話等を使い、医師と健康指導スタッフが連携した「顔の見える」健康サポートのネットワークによる、疾病予防と健康づくりのコミュニティをつくることを目的としている。

岩手県釜石市

「防災教育と震災復興の現状」について

東日本大震災で大きな被害を受けた釜石市では、群馬大学の片田教授による「避難三原則」を代表とする防災教育によって、「釜石の奇跡」と呼ばれる小中学生の迅速な避難が行われ、その要因と、復興の現状を視察。

釜石市が防災教育に至った目的は、まずは子どもたちの安全確保、そして、防災意識を子どもから大人ひいては地域全体へ根づかせることだった。

建設環境委員会視察 REPORT

日程・視察先
6月30日 富山県高岡市
7月1日 石川県金沢市
報告者 建設環境副委員長 酒井 豪一郎
参加委員数 8人

富山県高岡市

「高岡市老朽空き家等の適正な管理に関する条例」について

「老朽危険空き家除去支援事業」について

高岡市では、空き家の増加に伴い、防犯・防災等の問題があるとして、住民から苦情や相談が寄せられるようになった。特に老朽空き家の増加は、生活環境に悪影響を与えるようになり、平成21年4月に「老朽空き家対策連絡協議会」を市内に設置して検討を進め、安全で安心なまちづくりを進め、生活環境を保全するため、平成25年3月に条例を制定した。

「老朽危険空き家除去支援事業」は、建築資材の落下や飛散等のおそれのある空き家の解体を行う市民に、その費用の一部を補助する制度。補助の対象となる空き家は、一戸建てのもので、近隣及び道路等、周辺への危険度判定基準を満たすものとし、補助金額は補助対象経費の2分の1、50万円を上限としている。

石川県金沢市

「金沢市再生可能エネルギー導入プラン」

「防災対策としてのエネルギーセキュリティの向上」について

金沢市では、豊かな自然環境や身近な生活環境の保全に積極的に取り組むとともに、歴史的なまちなみや伝統文化の保存に努めてきた。平成14年に「金沢市新エネルギービジョン」、平成23年3月に「金沢市低炭素都市づくり行動計画」を策定し、持続的な発展が可能となるまちづくりを進め、平成25年度に「金沢市再生可能エネルギー導入プラン」を策定した。このプランでは再生可能エネルギーの導入や未利用エネルギーの活用を計画的に図り、「エネルギー自立都市金沢の実現」を目指している。

計画では、18のモデル事業を実施するが、防災対策の視点から、災害発生時に電力を自力で確保できるように、市内の防災拠点等に太陽光発電設備と蓄電設備を計画的に設置する。既に、防災拠点225施設のうち15施設に設置され、今後、10施設に設置する計画である。

大好評♪ 第3回議場コンサート

議会 NEWS

●開催日時/平成26年6月6日(金)午前10時から ●開催場所/市役所田無庁舎3階 議場 ●演奏者/東京ニューシティ管弦楽団(木管五重奏)

Q1. 曲目や演奏はどうでしたか?

よかった 97% ふつう 3%
ご感想:誰でも知っている曲が中心で楽しかったです。生の演奏は身近に感じました。

Q2. また議場コンサートを聴きに来たいですか?

はい 100%
ご感想:議員席で拝聴出来て感激しました。次回も楽しみにしています。

Q3. 議場コンサート開催の情報はどこから得ましたか?

1位 市報
2位 議会だより
3位 市ホームページ、議員から聞いて、議員のホームページを見て、等

Q4. ご来場者の年代は?

1位 70代 48%
2位 60代 26%
3位 40代 17%

皆さんの「コンサートの感想」は?

当日35名の方がアンケートにご回答くださいました。ご協力ありがとうございました。

当日は小雨の降るあいにくのお天気でしたが、お越しになった48名の市民の皆さんは、議員席や傍聴席で、演奏を間近に聞きになりました。演奏は、東京ニューシティ管弦楽団の木管五重奏。平成2年に発足し、来年初立25周年を迎える楽団で、こもれびホールでのコンサートなど、市の文化・芸術の振興に大変貢献されています。J.シュトラウスの「観光列車」を皮切りに、「サウンド・オブ・ミュージック・セレクション」など約30分の演奏が行われ、市民の皆さんも楽団の奏でる美しい旋律に感動されていました。また、楽団の方による曲と楽器の紹介もあり、実際に演奏で使用する楽器を間近で見ながらの解説が大変わかりやすいと、皆さんに好評でした。今回のコンサートで、初めて議場にお越しになった方も多く、このイベントが、議会を身近に感じていただけるきっかけとなったならば幸いです。なお、コンサートの様子については、ホームページの「議会インターネット中継」のページからご覧になれます。

また、楽団の方による曲と楽器の紹介もあり、実際に演奏で使用する楽器を間近で見ながらの解説が大変わかりやすいと、皆さんに好評でした。今回のコンサートで、初めて議場にお越しになった方も多く、このイベントが、議会を身近に感じていただけるきっかけとなったならば幸いです。なお、コンサートの様子については、ホームページの「議会インターネット中継」のページからご覧になれます。